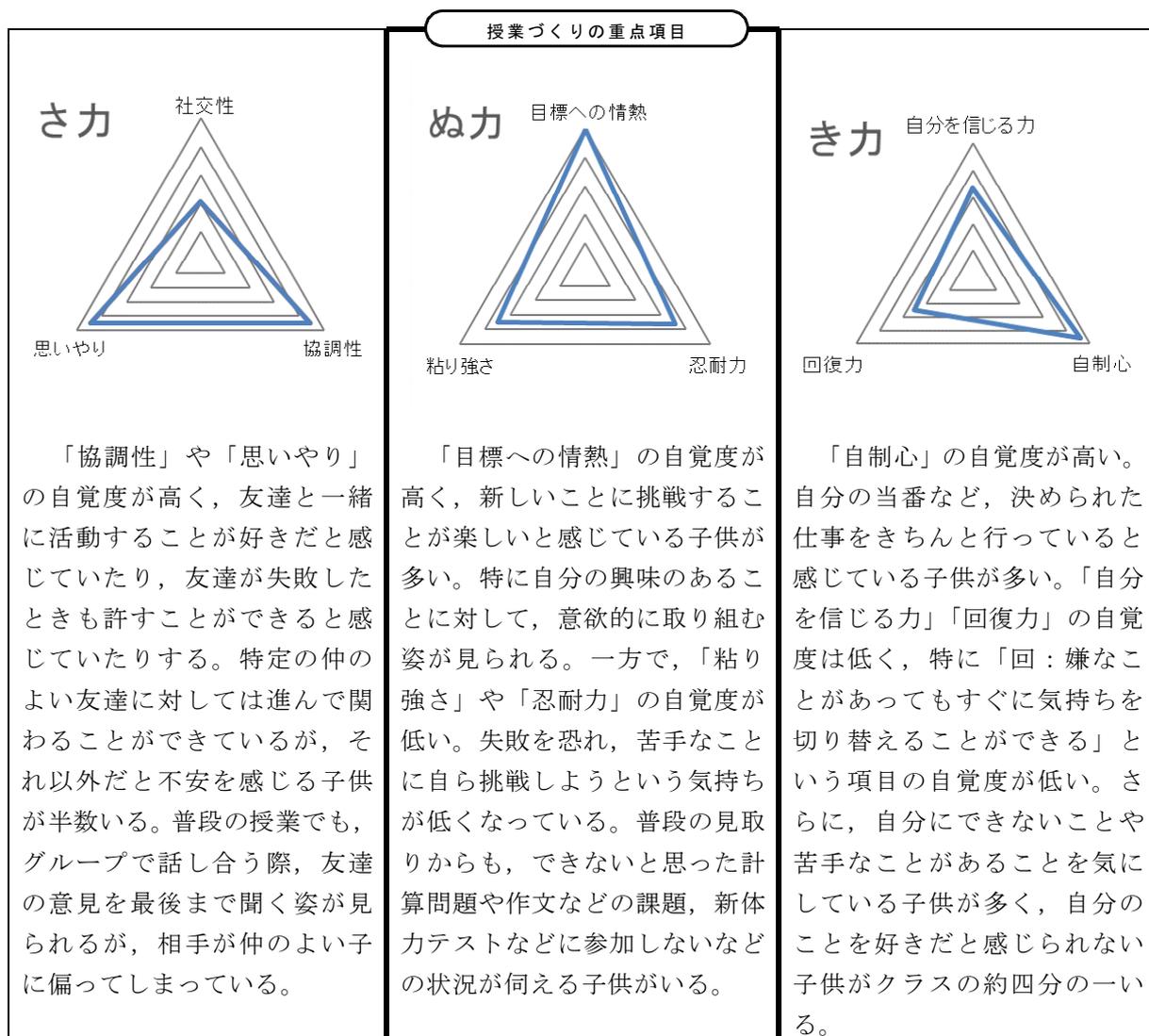


1 さぬき力（非認知能力）に関する子供(35名)の実態



2 教科に関する子供の実態

幅跳びをやってみたい子供（30名）は、今までの記録よりもっと遠くへ跳びたいという目標を持っている。一方で、「跳べないからしたくない」「失敗したくない」「できるようにならない」と不安を感じている子供（5名）もいる。

「体育の授業で困ったときにすることは何か」という質問に対して「友達に聞く」が一番多く、次いで「教科書を見る」「調べる」という回答が多かった。よりよい動きにしていくために、友達の考えを聞こうとしている子供が多い。さらに、教科書を見たり、調べたりするなど、困ったときには改善に向けてコツを見付けようと、様々な方法をとろうとする意思をもっていることが伺える。

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…「社交性」の自覚度が低く、自ら友達に話しかけることが苦手である。仲のよい安心できる友達とは、考えを伝え合うことができる。

# 第4学年東組 体育科学学習指導案

## 「歩数を見つけて もっと遠くへ ～走・跳の運動（幅跳び）～」

学習指導者 安岐 美佐子



### 1 本単元で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【授業の詳細】

本単元では、3～7歩程度の助走からの幅跳びを行い、チーム6人の3歩助走による初回の幅跳びの合計飛距離からの伸びでチームごとに競い合う。3歩助走での幅跳びを経験し、1cmでも遠くに跳べるようになるためには強い踏切りや助走のスピードなどが必要だと考えた子供たちは、助走の歩数を伸ばそうと考え、5～7歩の助走を体験する中で自分に合った歩数を見付けていく。そして、自分の選んだ歩数で自己の能力に適した課題を見付け、踏切り足、踏切りの強度や角度、助走のスピードやリズムを手がかりにしなが、動きを身に付けるための活動を工夫していく。その中で、見いだした自己の課題について友達と対話しながら跳び方を色々と試し、より記録を伸ばそうとしていく。例えば、「僕は5歩の助走が一番跳べた。でも、もっと踏切りの角度を上げたら記録が伸びると思う。見ててね」「踏み切った後、もっと足を上げて跳ぶといいんじゃないかな」「なるほど。ゴム紐を置いて、飛び越えるようにしてみるからもう一度見てて」などのように課題解決に取り組んでいく。その中で、友達と励まし合って取り組んだり、自分の成長を自覚したりして、何度も挑戦を繰り返す。そうすることで、短い助走から強く踏み切って遠くへ跳ぶといった技能を向上させたり、他者と競い合う中で勝敗を決するだけでなく、記録向上のために共に高め合う価値を見いだしたりしながら、さらに記録を伸ばそうと取り組んでいく姿を目指す。

### 2 単元計画と働きかけの概要（本時5/6）

学習の流れ	働きかけ
<p><b>① 幅跳びをやってみよう</b> 立ち幅跳びと走り幅跳びの遠くへの跳びやすさを比較することで、両足ではなく片足で踏み切の方が遠くへ跳ぶことを体感し、さらに、跳びやすい踏切り足があることに気付いたり、助走の必要性を感じたりする。一方で、助走の距離が長すぎても跳びにくいことも体感する。踏切り足を定めることや助走のリズムに気付いていき、まずはそれを生かした3歩助走で記録会をすることを確認する。</p> <p><b>② 3歩助走で自己ベストを目指そう（記録会）</b> 強い踏切りが大切だということを知る。また助走スピードを上げようと、5歩、7歩助走での記録会も行うことを確認する。</p> <p><b>③ 5歩助走で自己ベストを目指そう（記録会）</b> 助走のリズムや強い踏切りを生かしながら、5歩助走で記録を測定する中で、その後の踏み切る角度などに気付いていく。</p> <p><b>④ 7歩助走で自己ベストを目指そう（記録会）</b> 7歩助走で記録を測定する。その後、これまでの記録を比べることで、自分の踏切りについての課題を見いだす。そして、ベストを出すために、自分に合った歩数で跳びたいという思いを高める。</p> <p><b>⑤ 自分に合った歩数で自己ベストを目指そう</b> 自分に合った歩数と、自分の課題を確認する。そして、自分に合った歩数で、より遠くに跳ぶことができる跳び方を試していく。さらに、歩数を増やして跳んでみたいという思いを高める。</p> <p><b>⑥ 自己ベストを目指そう（最終記録会）</b> 自分に合った歩数や跳び方で記録会に挑戦し、より遠くに跳べる助走を探究していく。</p>	<p><b>見通し</b> 情【遠くに跳ボード】②～⑥ 各歩数の記録会の中で見付けた遠くに跳ぶための手がかりと、各自が選んだ助走の歩数を補助黒板に示し、自分の記録を伸ばすための手がかりを見付けられるようにする。 ㊟意欲的に取り組もうとする姿を教師がその場で価値付ける。</p> <p><b>行動</b> 粘【TRYアンドTRYタイム・グッズ】②～⑥ 友達と対話しながら挑戦する時間を設ける。また、いろいろな跳び方が試せるよう、課題に焦点化できる道具を用意しておく。 ㊟いろいろな跳び方を試す姿を教師がその都度称賛する。</p> <p><b>振り返り</b> 信・回【チーム力会議】②～⑥ 学習課題に対する自己の頑張りを振り返ると共に、友達の頑張りにについても、チームの中で共有する場を設ける。 ㊟友達から頑張ったことを伝えてもらったり、うまくいかないことがあっても、次時にそのことを解決しようとする姿勢を教師が全体の場で取り上げ称賛したりする。</p>

3 本時の学習

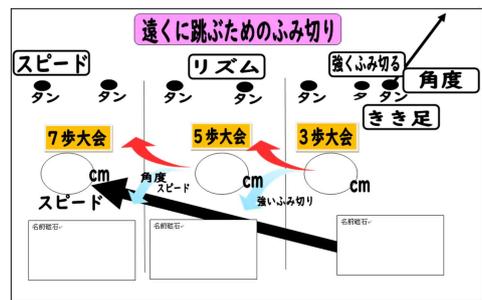
目 標	より遠くに跳ぶために自分の課題を解決しようと跳び方を様々に試しながら、より遠くに跳ぶための手がかりについて考えたことを伝え合い、自分に合った練習の場を選ぶと共に、仲間と協力するよさを感じて取り組むことができる。
--------	---

学習活動と働きかけ		主な子供の意識	
見 通 し	1 学習課題を確認する。 【目標への情熱】 【遠くに跳ボード】	僕は5歩にするよ。一番記録がよかったからだよ。 自分に合った歩数で、遠くに跳ぶための踏切りができれば、自己ベストが出そうだよ。	僕は7歩にするよ。スピードを上げても遠くに跳ぶ踏切りができるからね。
	自分に合った歩数で自己ベストを目指そう		
行 動	2 自己の課題を設定し、課題解決に取り組む。 【粘り強さ】 【TRYアンドTRYタイム・グッズ】	私の課題は、リズムだと思うよ。5歩だとなんとかタンタタンのリズムで踏み切れるよ。	僕の課題は角度だと思うよ。踏切りの角度を意識したら、7歩でももっと記録が伸びそうだよ。
		全部が強くてターンターンになっているな。手伴奏してもらいながら、タンタタンを意識して、もう一回やってみよう。	ゴムを使って、踏み切った後、足をしっかり振り上げることを意識して、引っかけからずに超えられるように跳んで見よう。
		友達が見てくれたおかげでタンタタンで、最後を強く踏み切れたよ。	ゴムを置くと、さっきより足が振り上げられたよ。
		5歩でできたから、7歩でスピードを上げて、リズムを意識してやってみよう。	7歩でできたから、次は9歩でスピードを上げてやってみようかな。9歩でも角度を意識してやってみよう。
		何度も挑戦したら、7歩でもうまくいったよ。	友達が角度を見てくれたおかげで、9歩でも高くふわっと跳べた。
		自分に合った歩数で、遠くに跳ぶ手がかりを意識してできたよ。	
振 り 返 り	4 本時の学習を振り返る。 【自分を信じる力】 【回復力】 【チーム力会議】	自分に合った歩数で前より記録が伸びたよ。	さらに歩数を増やしてみても、記録が伸びたよ。
		〇〇さんは、僕の動きを見て、リズムについてのアドバイスをくれたよ。 〇〇さんのおかげで記録が伸びたよ。最後の記録会に向けて、今日見付けた踏切りで、記録を伸ばしたいな。	△△さんは、何度も歩数や助走の強さを試していて、記録が伸びていたよ。 もっと記録を伸ばしたかった。でも、友達と一緒に頑張れた。次は、もう一度試してから記録会に臨みたい。
評 価	設定した自己の課題について、自分に合った歩数の助走を試す中で、踏切りの角度や強度などの手がかりについて友達と伝え合い、活動の場を選ぶと共に、仲間と協力することで自己やチームの記録の向上につながることを感じ、進んで取り組んでいる。 【方法：発言・様相・記述】		

## 働きかけの詳細資料

### ～見通し～ **学習活動1** 情【遠くに跳ボード】(2～6時間目)

これまでに、3歩、5歩、7歩助走による記録会を行っており、記録会ごとの記録の変化とその時見付けた遠くに跳ぶための手がかりを示しておく。前時の最後に、今までの自分の記録を比較して、自分に合った助走の歩数を選び、名前磁石を貼っている。本時は、始めに、何歩で遠くに跳ぶための踏み切りをしようとしているか、とその理由を問いかけ、補助黒板を基に確認していく。そうすることで、「僕は記録が一番よかった5歩でもっと強く踏み切りたい」「7歩でできたから、9歩でスピードを上げて角度を意識して跳びたい」などと表出し、人によって自己ベストが出せるときの歩数が違うことを確認する。そして、自分に合った歩数の助走で、遠くに跳ぶための手がかりを試していけば記録がさらに伸びるという学習課題を解決することの有用性を感じ、「目標への情熱」を發揮しながら意欲的に取り組もうとしている子供を価値付ける。



【遠くに跳ボード】

### ～行 動～ **学習活動2** 粘【TRYアンドTRYタイム・グッズ】(2～6時間目)

### **学習活動3**

本単元では、6人のチームでの記録の伸びを競っていく。それぞれのチームを3人ずつの2グループに分け、この3人のグループでTRYアンドTRYタイムを行う。いろいろな跳び方を試す人、映像記録をする人、跳躍を見てアドバイスを人、に役割を分け、その役割を交代しながら取り組んでいく。その際、自分の課題に焦点化できるような踏み切りの強さが分かりやすいロイター板、踏み切った後の角度を意識するためにゴム紐、また、自分のスタート位置を示す玉などを用意しておく。



【TRYアンドTRYグッズ】

本時では、まず、自分が選んだ歩数で何度か跳躍する中で、友達に見てもらいながら自己の課題を設定する。その後、その課題に応じた練習の場を工夫しながら試していく。ゴムを使って踏み切りの角度を意識したり、助走のリズムを手伴奏してもらったりしながら自分に合った歩数で、より遠くへ跳べる助走を見付けていこう。教師は、いろいろと試しながら挑戦する姿をその都度称賛し、粘り強く取り組んでいることを自覚できるように促す。

最後に、いろいろと試したことを生かして記録を測定する。

### ～振り返り～ **学習活動4** 信・回【チーム力会議】(2～6時間)

まず、自分で本時の学習課題について「できたこと」「頑張ったこと」を振り返った後、動きを見合った3人のグループで、お互いの頑張りを称賛し合う。そして、チームの6人で「記録が伸びている」「何度もいろいろな方法で取り組んでいる」「友達にアドバイスしている」「遠くへ跳ぶためのコツを見付けている」という観点で相互評価を行う。チームの友達がどの観点について頑張っていたか、シールを貼る際に相談することで、友達に頑張ったことを価値付けてもらったり、気付いていなかったことを言ってもらったりし、自己肯定感を高め、



【チームカグラフ】

「自分を信じる力」の自覚を促す。それぞれの頑張りをチーム力としてグラフに蓄積していくことで、チームに貢献したことが見えるようにし、勝負の中で、記録や勝負だけでなく、共に記録の向上に向けて高め合うよさを感じられるようにする。A児のように本時できたことを捉えにくい子供に対しては、次時にしたいことを問い、再度取り組もうとする姿を全体で称賛し、「回復力」が自覚できるようにする。

